

教育システム情報学会 (JSiSE)
2014 年度 JSiSE 全国大会(第 39 回)のご案内

2014 年度全国大会の開催日と開催場所が決定しました。

開催日 : 2014 年 9 月 10 日(水)~12 日(金)
開催場所 : 和歌山大学
<http://www.wakayama-u.ac.jp/access.html>

是非ご参加ください。大会の詳細は、随時 Web サイト等のご案内いたします。

インタラクティブ・セッションについて

2014 年度全国大会より、研究交流をより活性化する新しい試みとして「インタラクティブ・セッション」を実施します。通常のセッションより発表時間を長めにとり、ポスター形式で発表していただきます。システムを持ち込んでデモンストレーションをしたり、実際に触れてもらいながら議論するなど、より自由な形式で他の参加者と交流していただける場としてご活用いただけます。発表申し込みや投稿原稿の様式・締切は口頭発表に準じます。より多くの参加者との交流が促されるよう口頭発表がない時間帯に実施いたします。詳細は大会 Web サイトに掲載いたしますので、ふるってご参加ください。

2014 年度 全国大会 企画セッション テーマ募集のご案内

教育システム情報学会 大会企画委員会
委員長 不破泰

全国大会 2 日目の午後に開催されます，企画セッションのテーマを募集いたします。

企画セッションは参加者にとって関心の高く，より詳細な研究テーマに焦点をあてたセッションです。奮ってご応募ください。テーマが採用された方はオーガナイザになっていただきます。なお，お申し込みいただいた内容にしたがって審査をいたしますので，ご了承ください。

企画セッションの講演原稿のフォーマット，投稿方法，セッションのあたりの発表数，講演時間等は一般セッションと同じです。ただし，オーガナイザの裁量で 1 スロットにつき講演 1 件分を議論の時間にあてることができます。セッションの時間帯やスロット数は，大会プログラム作成時に大会企画委員会のプログラム委員会にて決定いたします。講演は，大会の講演申込みサイトより，一般から公募いたします。また，企画セッションでの発表は表彰の対象となります。

企画セッションは，一般セッションよりも特化したテーマに焦点があてられていることが望まれます。テーマご提案の際には，一般セッション募集用のカテゴリ表（Web サイトに掲載予定）を参考にしてください。

■オーガナイザの仕事

- 企画セッションのプログラムの作成
- 当日のセッション運営

■以下の項目をご記入の上，大会企画委員会（プログラム部門）(taikai-pc@jsise.org)宛まで電子メールにてお申し込みください。

- テーマ
- 概要（A4 用紙 1 枚以内）
- テーマが該当するカテゴリ，セッション名（カテゴリ表より選択）
- テーマが該当するキーワード（カテゴリ表中のキーワード）
- テーマ独自のカテゴリ，セッション名，キーワード
- オーガナイザの氏名・所属・連絡先（電子メールアドレスなど）
※ オーガナイザは教育システム情報学会会員に限ります。

■申込期限

2014 年 3 月 14 日(金)

（2014 年 3 月 20 日（木）までに採録結果を通知いたします）

教育システム情報学会 (JSiSE)

2014 年度 第 1 回研究会 講演募集

教育システム情報学会 (研究会委員会)

担当：仲林 清, 松居辰則, 北村士朗, 真嶋由貴恵, 加藤泰久, 櫻井良樹

- テーマ : e ラーニング環境のデザインと組織マネジメント / 医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育 / 一般
- 開催日時 : 2014 年 5 月 10 日 (土) (発表件数により 9 日 (金) も開催)
- 会場 : 放送大学 (千葉市美浜区若葉 2-11)
<http://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/gaiyo06.html>

■主 旨 :

本年度第 1 回研究会は, 「e ラーニング環境のデザインと組織マネジメント / 医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育 / 一般」のテーマで実施いたします。

「e ラーニング環境のデザインと組織マネジメント」に関しては, e ラーニングを複合的な教育研修メディアと捉える立場から, 単なる Web による教材配信にとどまらず, 企業や大学における人材開発や組織マネジメントとの連携, 学習コンテンツ設計, インストラクショナルデザイン, 品質評価, 学習者支援, ブレンデッドラーニング, インフォーマルラーニングなどの方法論, e ラーニングツール, システム, 実践環境に関する提案・開発・応用など幅広いトピックスに関するご発表を募集いたします。

「医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育」に関しては, これまで, 人を対象とするこの分野には, コンピュータなどの ICT の活用はなじまないとされてきました。しかし, 一方では, マルチメディアを活用した e ラーニングが多くの医療系大学や病院などに導入され, ICT を活用して膨大な知識の効率的な学習, 新しい知識の定着, 医療・看護技術の習得などで, 高い学習効果が得られたことが報告されています。また, 医療人育成のために体系化された教育プログラムにこそ e ラーニングや ICT の活用が効果的である, との声も聞かれるようになってきました。そこで本研究会では, 医療・看護・福祉分野において求められている高い実践能力をもつ人材の育成やナレッジマネジメント, 学習者支援, 学習コンテンツの設計, インストラクショナルデザイン, 医療サービスの質保証ならびに質評価, e ラーニング教材制作, 臨床や教育機関での実践・運営環境, 著作権処理に関する様々なトピックを扱い, この分野における専門職教育に必要な知識や技能を習得するための ICT 活用教育方法について, 議論を進めていきたいと思えます。

その他, 教育システムに関する幅広い分野からの発表も歓迎致します。

初中等教育, 高等教育, 企業教育などの分野から, 多くの方々の発表をお待ちしております。

なお, 第 1 回研究会では, 論文形式の原稿を伴わない発表も受け付けます。各種の実践事例やシステム・製品に関して, 気軽に情報提供を行い聴衆の方と意見交換を行いたい方は, ぜひご活用下さい。

★発表にあたってはいくつか注意事項がございますので, 下記をご覧ください。

■発表申込み : ※発表申込み締切 : 2014 年 3 月 17 日 (月)

以下の事項を電子メールにてお送りください。

1. 発表タイトル
2. 発表者・所属 (登壇者に○)
3. 発表概要 (100 字程度)
4. 連絡先住所・氏名・電子メールアドレス
5. 論文原稿の有無
6. その他 (使用機器など)
7. 申込先 : 〒108-0023 東京都港区芝浦 3 丁目 17-12 (吾妻ビル)
NEC ラーニング 営業本部
櫻井 良樹 E-mail: sakurai.y.ab@m.titech.ac.jp

■発表原稿の提出：※発表原稿提出締切：2014年4月7日(月)

上記 5 で、「論文原稿有」を選んだ方は以下の要領で原稿を作成して下さい。

1. 原稿は A4 用紙で、2 枚以上 8 枚以下の偶数枚でお願いします。
2. 原稿は、学会 Web サイトの研究会開催案内ページの下部に掲載しております「研究会報告執筆要領・見本」をご確認ください。

<http://www.jsise.org/studygroupcommittee/format.html>

3. 研究報告の原稿提出時に、合わせて著作物利用許諾書の提出が必要です。

<http://www.jsise.org/society/txt/kyodaku.txt>

4. 原稿送付先

〒108-0023 東京都港区芝浦 3 丁目 17-12 (吾妻ビル)

NEC ラーニング 営業本部

櫻井 良樹

E-mail: sakurai.y.ab@m.titech.ac.jp

※可能な限り電子メールで送付してください。

その場合は、フォント埋め込みされた PDF 形式にて送信下さい。

5. 発表時間は 25 分 (発表 20 分、質疑 5 分) を予定しております。

※本研究会報告の書誌情報は CiNii に掲載されます。

※研究報告の原稿提出時に、著作物利用許諾書の提出が必要です。

<http://www.jsise.org/society/txt/kyodaku.txt>

※営利目的でない場合には、学会の許可なく著者らが論文等を利用すること

(Web サイト等に掲載を含む。出典要明記) が許されています。

詳しくは著作権規定をご確認ください。

http://www.jsise.org/utility/pdf/copyright/copyright_kitei.pdf

※参加費は無料ですが、登壇者には資料の購入 (1000 円) をお願いしています。

なお、個人で研究会資料を年間購読されている場合は、その限りではありません。

■論文原稿無の方へのお願い：

上記 5 で、「論文原稿無」を選んだ方は以下の要領で発表を準備して下さい。

- ・発表時間は 15 分 (予定) です。発表、質疑、意見交換等を自由にアレンジしてください。
- ・発表時には必ず資料の配布をお願い致します。形式は任意です。
- ・配布資料は各自で準備をお願いいたします。学会では印刷を致しません。
- ・システムや製品のデモンストレーションをしていただいても構いません。この場合も事前に担当者にご相談ください。

■懇親会

研究会終了後、懇親会を開催する予定です。会費は 4~5000 円の予定です。

■お問い合わせ先：

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼 2-17-1

千葉工業大学 情報科学部 情報ネットワーク学科

仲林 清

E-mail: knaka@net.it-chiba.ac.jp

教育システム情報学会 (JSiSE)
2013 年度第 6 回研究会 プログラム・参加者募集

担当: 松永公廣, 西野和典, 西端律子, 鷹岡亮

- ◆**テーマ** : 新しい教育を切り開く ICT の利用実践・開発研究/一般
- ◆**日時** : 2014 年 3 月 15 日 (土) 9:20-17:00
- ◆**会場** : 名古屋学院大学 名古屋キャンパス白鳥学舎曙館
(〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町 1 番 25 号)

※参加費無料 / 研究会資料代 : 1,000 円

■□■□■プログラム■□■□■

1 件 20 分 (発表 15 分, 質疑 4 分, 交代 1 分)

◇開 場 9:00

◇開会の挨拶 9:20-9:30 (A 会場のみで実施)

[A 会場, 605 教室]

◇開会の挨拶 9:20-9:30

◇セッション A-1 特別支援教育における ICT 活用 9:30-10:30

9:30- 9:50

肢体不自由者のためのタブレット端末の操作訓練アプリケーションの開発

- 大宮直人, 吉本定伸(東京工業高等専門学校), 野口健太郎(国立高等専門学校機構), 谷本式慶(東京都立八王子東特別支援学校), 佐野将大(香川県立高松養護学校)

9:50-10:10

肢体不自由児の運動機能に応じたタブレット PC の活用方法について

- 高橋浩(奈良県立奈良養護学校), 西端律子(畿央大学)

10:10-10:30

知的障害児を対象とした助詞学習デジタル教材の開発

- 末次みなみ, 山口真之介, 大西淑雅, 近藤秀樹, 若菜啓孝(九州工業大学), 津森伸一(近畿大学九州短期大学), 西野和典(九州工業大学)

◇休憩 10:30-10:50

◇セッション A-2 ICT の教育利用 10:50-11:50

10:50-11:10

小学校安全マップ活動支援 Android アプリケーションの開発と活動報告

- 大林直樹, 虻川みのり, 吉本定伸(東京工業高等専門学校), 福本徹(国立教育政策研究情報センター)

11:10-11:30

Kinect を用いた肢体不自由者向け腕トレーニングシステムの開発

- 野島幸大, 吉本定伸(国立東京工業高等専門学校), 野口健太郎(国立高等専門学校機構), 谷本式慶(東京都立八王子東特別支援学校)

11:30-11:50

IT を利用した簿記自主学習

- 土屋直子(早稲田大学)

◇休憩 11:50-13:20

◇セッション A-3 プログラミング教育 13:20-15:00

13:20-13:40

ブレンド型プログラミング授業における意識の向上に役立つ活動

○宮地功(岡山理科大学)

13:40-14:00

手作業による処理プロセス情報を重視したアルゴリズム教育の試み

○新開純子, 早勢欣和(富山高等専門学校), 宮地功(岡山理科大学)

14:00-14:20

配列・関数に着目したプログラミング作成能力と数学能力の相関分析

○下郡啓夫(函館工業高等専門学校), 伊藤恵, 大場みち子(公立ほこだて未来大学)

14:20-14:40

プログラミングを利用した技術文書作成教育の実践と検討

○藤田悠(長野工業高等専門学校), 山本樹(尚美学園大学)

14:40-15:00

プログラミング教育における紙使用による学習者の思考促進と調査の試み

○伊藤恵, 大場みち子(公立ほこだて未来大学), 下郡啓夫(函館工業高等専門学校)

◇休憩 15:00-15:20

◇セッション A-4 学習コンテンツと教育デザイン 15:20-16:40

15:20-15:40

コラボレーションツールを用いた大学講義におけるアクティブラーニングの実践

○佐々木正徳, 飯沼瑞穂(東京工科大学)

15:40-16:00

Development of Mobile Learning Content for English Learners

- 携帯電話向けの英語学習コンテンツ作成の試み -

○汪曙東, 岩田淳(島根大学), Douglas Jarrell(名古屋女子大学)

16:00-16:20

基礎力強化のための e-Learning の活用 ~ビデオコンテンツと CMS の活用~

○中村勝則(武庫川女子大学)

16:20-16:40

在宅リハビリテーションにおける高齢者支援方法の開発

○長山知由理(お茶の水女子大学)

[B 会場, 606 教室]

◇セッション B-1 学習支援教材の開発 9:30-10:30

9:30- 9:50

英語プレゼンテーションのための音声学習支援ソフトウェアの開発

○松永竜太郎, 今井美和花, 小嶋徹也, 吉本定伸, 堀智子(東京工業高等専門学校), 野口ジュディー・津多江(武庫川女子大学)

9:50-10:10

競争原理によって学習に対する動機づけを強化したグループ学習教材の開発と実践

○千田和範, 野口孝文, 加藤雅也, 稲守栄(釧路工業高等専門学校)

10:10-10:30

情報システム技術者教育のための議論教材開発

○田仲遼也, 北中佑樹, 竹内和広(大阪電気通信大学)

◇休憩 10:30-10:50

◇セッション B-2 情報リテラシー教育 10:50-11:30

10:50-11:10

初年次情報リテラシー科目履修者の情報活用に関する意識の変化

○記谷康之, 竹井光子, 脇谷直子(広島修道大学)

11:10-11:30

大学初年次における情報リテラシーの現状

○児島完二(名古屋学院大学)

◇休憩 11:50-13:20

◇セッション B-3 教育評価 13:20-15:00

13:20-13:40

裸眼 3D 視線一致型および従来型テレビ会議システムによる交流学习の注視点解析と学習効果の比較検討

○谷田貝雅典(岡崎女子大学), 安田孝美(名古屋大学), 根来民子(日本福祉大学),

喜多秀文(群馬県立がんセンター), 永岡慶三(早稲田大学)

13:40-14:00

アプリ「LessonNote」利用による授業研究と評価

○木村喜生, 永岡慶三(早稲田大学), 高橋昭彦(東京学芸大学)

14:00-14:20

ゲーミフィケーションを導入したゼミ環境におけるモチベーションと議論能力の評価

○太平茂輝, 川西康介, 長尾確(名古屋大学)

14:20-14:40

グループ学習におけるタブレット PC 利用に関する一考察

○石川千温(札幌学院大学)

◇休憩 14:40-15:20

◇セッション B-4 学習環境と学習支援デザイン 15:20-16:40

15:20-15:40

HTML5 と JavaScript を用いた電気回路仮想実験環境の構築

○真田博文, 福田一輝, 松崎博季, 三田村保(北海道工業大学)

15:40-16:00

議論と同時に過程を構造化して記録するシステムの構築

○豊田美咲, 山口真之介, 大西淑雅, 近藤秀樹, 若菜啓孝(九州工業大学),

津森伸一(近畿大学九州短期大学), 西野和典(九州工業大学)

16:00-16:20

音声認識を用いた講義映像の「あんな検索」の実現と評価

○柳沼良知(放送大学)

16:20-16:40

三酔人経綸問答+ α 型オンラインディスカッションの提案

○永岡慶三, 中井良, 藤原宏伸, 安藤寛高(早稲田大学)

[C 会場, 611 教室]

◇セッション C-1 学習環境・福祉支援デザイン 9:30-10:30

9:30- 9:50

高等教育機関の Web サイトを対象とした生涯学習情報の自動判定法の提案

○辻靖彦(放送大学)

9:50-11:10

iPad を用いた学習環境の構想

○長尾和彦, 桑原裕也, 古谷勇樹(弓削商船高等専門学校)

◇休憩 10:10-10:50

◇セッション C-2 学習支援とインタフェース 10:50-11:50

10:50-11:10

学習支援についての再考 —情報技術による学習支援とは—

○渡邊豊英(名古屋産業科学研究所)

11:10-11:30

歴史イベント構造を用いた歴史教科書内容の概要把握支援

○藤井克典(広島大学大学院), 舟生日出男(創価大学), 平嶋宗(広島大学大学院)

11:30-11:50

クイズ掲示板の運営とユーザインタフェースの改良

○竹内俊彦(東京福祉大学), 加藤尚吾(東京女子大学), 加藤由樹(相模女子大学), 舘秀典(東京福祉大学)

◇休憩 11:50-13:20

◇セッション C-3 学習支援システム 13:20-15:00

13:20-13:40

理解の差分を抽出する手法の提案とそれを用いた対話活動支援の実験的評価

○藤澤祐二, 仁野由彬(広島大学), 林雄介, 平嶋宗(広島大学大学院)

13:40-14:00

裁判ニュース記事を対象とした要約スキル育成のための学習支援システムの開発

○藤井雄士(広島大学大学院), 舟生日出男(創価大学), 平嶋宗(広島大学大学院)

14:00-14:20

発見的解法を必要とする算数文章題を対象とした数量関係的統合の外化支援

○竹内俊貴, 古久保和仁, 小田拳太, 林雄介, 平嶋宗(広島大学大学院)

14:20-14:40

テキスト記述型プログラミングへの移行支援機能を有するビジュアルプログラミング環境の開発

○大浦真暉, 小林慶, 國宗永佳, 新村正明(信州大学)

14:40-15:00

リアルタイム姿勢推定技術を活用した拡張現実型学習支援手法の検討

○岡本勝, 住本智宏, 松原行宏(広島市立大学大学院)

◇休憩 15:00-15:20

◇セッション C-4 学習コンテンツと教育デザイン 15:20-17:00

15:20-15:40

特徴単語による小学校通知表所見の教員間比較

○山崎宣次(大阪成蹊短期大学), 森広浩一郎, 掛川淳一, 小川修史(兵庫教育大学), 加藤直樹, 日比光治, 興戸律子(岐阜大学)

15:40-16:00

授業進度に合わせて ICT 活用に関する情報を配信するシステムの提案

○三井一希, 戸田真志, 松葉龍一, 鈴木克明(熊本大学)

16:00-16:20

地域を指向した実践教育活動支援システムの構築

○佐藤文昭, 八代一浩, 吉田均(山梨県立大学)

16:20-16:40

サービス・ラーニングにおけるモバイルポートフォリオシステムの構築と実践

○八代一浩, 佐藤文昭, 吉田均(山梨県立大学)

16:40-17:00

対人認知能力を形成支援するための学習環境デザイン

○永田奈央美(静岡産業大学), 岡本敏雄(電気通信大学, 京都情報大学院大学)

=====

◇閉会の挨拶 17:00-17:10 (C 会場のみで実施)

◇懇親会 17:30-19:00

教育システム情報学会 (JSiSE)

2013 年度 特集論文研究会 プログラム・参加者募集

担当：小西達裕 (研究会委員会 / 学会誌編集委員会)
小島一晃 (編集委員会・特集幹事)
東本崇仁 (編集委員会・特集幹事)

- ◆テーマ : 持続可能な学習教育支援システムの開発と運用
- ◆開催日 : 2013 年 3 月 15 日 (土)
- ◆開催場所 : 名古屋学院大学 名古屋キャンパス白鳥学舎
(〒456-8612 名古屋市熱田区熱田西町 1 番 25 号)
<http://www.ngu.jp/outline/access.html>

※参加費無料 / 研究会資料代 : 1,000 円

■□■□■プログラム■□■□■

※●はコメント希望の発表 (40 分 : 発表 20 分, 質疑応答 20 分) の発表者
○はその他の発表 (25 分 : 発表 20 分, 質疑 5 分) の発表者

◇開 場 9:00-

◇開会の挨拶 9:30-9:35

◇セッション D-1 (9:35-12:00) リフレクション支援

学生にクリティカルシンキングを促す授業実践～学生による情報の取り扱い方の変化～

●立野貴之 (松蔭大学), 若山昇 (帝京大学)

実践的学びの振り返り活動を支援する教材開発に関する研究

●沖林洋平, 田中理絵, 鷹岡亮, 岡村吉永 (山口大学教育学部)

ピアレビュー匿名化の影響とメールによるピアレビュー支援システムの開発

●庄ゆかり (広島文教女子大学), 長登康, 稲垣知宏, 隅谷孝洋, 中村純 (広島大学)

授業の感想を CMS・SNS に投稿・フィードバック・共有することの効果に関する分析

○佐藤弘毅 (名古屋大学国際言語センター)

◇セッション E-1 (9:35-11:35) 学習者記録

学習者特性を取り入れた e ポートフォリオの開発とその評価

●たなかよしこ (日本工業大学), 山川広人 (千歳科学技術大学),
野崎浩成 (愛知教育大学), 小松川浩 (千歳科学技術大学)

大規模かつ持続的に運用可能な教職課程履修者カルテシステムの構築

●古川文人, 渡辺博芳, 小島一晃, 福島健介, 鈴木賀映子, 横山明子 (帝京大学)

◇セッション F-1 (9:35-12:00) 支援システム開発

ゲーミフィケーション技術を用いたモバイル 就職活動支援システム「就活なう」の開発

●中桐齊之, 稲田淑花, 内平隆之, 米山寛二 (兵庫県立大学)

リモート管理・自動運用を志向した講義アーカイブシステムの開発と運用
●長谷川忍, 辻誠樹, 但馬陽一, 宮下和子(北陸先端科学技術大学院大学)

透視図法を学習可能な AR によるスケッチ学習支援システムの開発
●稲留太郎, 曾我真人, 瀧寛和(和歌山大学大学院)

情報系大学におけるフォーマル/インフォーマル・ラーニング環境の構築
○大場みち子(公立はこだて未来大学), 安永航, 山口琢(公立はこだて未来大学大学院)

◇昼休み 12:00-12:50

◇セッション D-2 (12:50-14:50) eラーニング実践

LMS を用いた全学情報教育の運用と教育効果

●小島篤博, 真嶋由貴恵, 宮本貴朗, 青木茂樹, 泉正夫(大阪府立大学)

初等中等教育での利活用を想定した eラーニング運用モデル

●長谷川理(信州大学総合情報センター/千歳科学技術大学大学院)
山川広人, 今井順一(千歳科学技術大学), 小松川浩(千歳科学技術大学大学院)

問題解決型学習のための多段階難易度練習問題の枠組みの提案

—新人看護師研修のブレンディング型 eラーニングを事例として—

●高橋暁子(徳島大学), 吉里孝子, 本尚美(熊本大学附属病院), 鈴木克明(熊本大学大学院)

◇セッション E-2 (12:50-14:10) 協調・共同

チーム型ものづくり教育における ICT 支援の実践

●大崎理乃(鳥取大学), 不破泰(信州大学)

協調課題解決学習を支援する Web システムの開発と運用

佐々木諒(山口東京理科大学), ●掛川淳一(兵庫教育大学), 伊藤紘二(山口東京理科大学)

◇セッション F-2 (12:50-14:50) 可視化

マトリックス型テキスト編集モデルによる学習過程の可視化

●山口琢(公立はこだて未来大学大学院), 大場みち子, 高橋修(公立はこだて未来大学)

議論全体の構造化・可視化を実現するグループ学習支援システム (GMSS) による
学習履歴の分析と評価基準の作成

●古俣升雄(東京工業大学大学院), 櫻井良樹(NEC ラーニング株式会社), 比嘉邦彦(東京工業大学大学院)

グループ学習支援システム (GMSS) における個別発言内容の内部論理の
構造化・可視化による議論の分析と評価

●櫻井良樹(NEC ラーニング株式会社), 古俣升雄, 比嘉邦彦(東京工業大学大学院)

◇休憩 14:50-15:05

◇セッション D-3 (15:05-17:05) 授業運用支援システム

LMS における受講登録者管理手法の提案と実装

●新村正明(信州大学), 足立紘亮(現 グリー株式会社), 長谷川理, 國宗永佳(信州大学)

LMS 大規模運用のための複数サイト構築手法の提案と実装

●新村正明(信州大学), 五月女雄一(現 ニフティ株式会社), 足立紘亮(現 グリー株式会社),
長谷川理, 國宗永佳(信州大学)

講義の効率的運用を支援する香川大学型 IT 教卓システムの開発 - 講義実施時の運用スタッフ負担軽減を図る情報通信機器の利活用を支援する汎用性の高い教卓の設計と実装 -

●八重樫理人, 寺尾徹, 林敏浩, 村井礼, 岩城暁大, 裏和宏, 今井慈郎, 堀幸雄, 末廣紀史(香川大学), 大塚輝(内田洋行公共本部ネットワーク&サービス推進事業部), 最所圭三(香川大学)

◇セッション E-3 (15:05-17:05) 授業・システム運用分析

毎週のオンラインテスト学習履歴データからみる学習者特性と期末試験結果との関係性

●久保田真一郎, 松葉龍一, 中野裕司(宮崎大学)

学習者の学びのニーズを考慮した情報モラル教育の基礎的研究

●阿濱志保里, 葛崎偉(山口大学)

学習支援システム Iⁿ Assistant (アイアシスタント) の開発と運用

●江本理恵(岩手大学)

◇セッション F-3 (15:05-17:05) 言語教育

ユーザエクスペリエンスを重視した中国語 e ラーニング教材開発と混合研究法による評価分析

●杉江聡子(北海道大学大学院)

音声認識技術を利用した日本語会話 Web 教材の開発と評価

●古川雅子, Pham Thanh Son, 今井新悟(筑波大学)

日本語能力と母語の違いに適応した留学生のための日本語発音練習システムの開発

●岡崎泰久, 松永悟, 田中久治(佐賀大学大学院), 渡辺健次(広島大学大学院)

=====

◇閉会の挨拶 17:00-17:10 (C 会場のみで実施)

◇懇親会 17:30-

教育システム情報学会(JSiSE) 2013 年度 第 5 回研究会 開催報告

担当：研究会委員 妻鳥貴彦/佐々木整/三石 大

◆テーマ◆「スマートデバイスによるこれからの教育・学習環境/一般」

■開催日時：2014 年 1 月 11 日 (土)

■会場：高知工科大学 A 棟 A106, A107 教室

2013 年度第 5 回研究会は「スマートデバイスによるこれからの教育・学習環境/一般」のテーマで、1/11(土)に高知工科大学で実施しました。発表件数は 23 件で、今回の研究会のテーマであるスマートデバイスの応用・活用に関連する発表が 9 件ありました。スマートフォンやタブレット PC が普及し、これらを活用した教育・学習環境の可能性がますます広がっていくことを実感できる機会になったとともに、活発な議論が行われ、今後のさらなる展開が期待される分野であると確信いたしました。この他、教育・学習支援システム、教育実践・評価や教材開発に関する発表などがなされ盛況のうちに終えることができました。最終的に 76 名もの参加者がおり、本学会の活動を外部に PR することもできました。

論文特集 Call For Paper

持続可能な学習教育支援システムの開発と運用

ICT技術の発展と全ての教育機関（初等・中等・高等教育機関等の公式教育機関，企業や教育サービス業者等の非公式教育機関を含む）における情報インフラ整備の進展に伴い，これまでに蓄積されてきた教育システム研究の成果をシステムの機能として実現すること，また開発したシステムを日常的に利用して長期間にわたる大規模な実践をすることが比較的容易になってきました．このような状況の中，今後一層重要となるのが学習教育システムの開発と運用の持続可能性であり，容易で継続的にシステムを運用できるようにすること，そして目指す学習や教育の形と支援機能の連携を明確にして改善できるようにすることが求められます．そこで本特集号では，学習教育支援システムの開発と運用の両面に焦点を当て，既存または新規に関わらず目指す学習や教育の形と明確に対応付けた新しいシステムや要素技術の開発，または長期間あるいは多数のユーザを対象とする優れた運用実績を持つシステムの教育実践をテーマとする論文を募集します．

1. 対象分野

本特集号では応用分野・システム開発の基盤となっている技術分野などには制約を設けず，プラットフォームからアプリケーションまでの学習教育支援システムの構築と運用に関する論文を広く募集します．対象とするのは必ずしも組織的に行っているプロジェクト等に限らず，個々の教員が各自の講義などで利用しているシステムの開発や運用で得られた知見も **good practice** として幅広く歓迎したいと考えています．また，システムの評価においては必ずしも学習効果の精密な統計的分析を前提として求めず，提案するシステムの機能の技術的実現性と妥当性の論証，実用年数や実利用者数の規模，活用するデータの規模などにも一定の価値を認めることとします．

対象分野の例を挙げますが，本特集の対象はこれらに限るものではありません．

LMS, CMS, CSCL, eポートフォリオ, eテストング, 遠隔教育システム, オーサリングシステム, コンテンツ自動生成, マルチメディア活用, ソーシャルメディア活用, 知的学習支援システム, 先進的デバイス活用, 先進的ヒューマンインタフェース活用, シミュレーション, マイクロワールド, スキル学習支援システム, データマイニング活用 など

2. 論文種別

すべての種別の論文（原著論文，実践論文，ショートノート，実践速報）を募集します．特に，先進的でありつつも発展途上のシステムやそれを活用した教育実践に関する報告，長期間にわたる大規模な教育プロジェクトの中間報告など，速やかに公表することにより本学会会員の参考となるショートノートや実践速報の積極的な投稿も歓迎します．なお，査読結果により，投稿時とは異なる種別での採録となる場合もあります．また，特集号編集委員会の判断で，一般投稿論文として扱う場合もあります．

3. 投稿要領

教育システム情報学会学会誌原稿執筆要領に準じます．詳細は教育システム情報学会の Web サイト (<http://www.jsise.org/>)で確認してください．なお，投稿の際には以下の点にご注意ください．

- ・すべての方へ：「投稿種別」で「特集号」を必ず選択してください．
- ・特集研究会（2013年3月15日（土）於；名古屋学院大学）で発表を行った方へ：投稿情報入力の際，「事務局への連絡事項」の欄に特集研究会での発表題目と発表番号を記載してください．

4. スケジュール

特集研究会：2014年3月15日（土） 於；名古屋学院大学 名古屋キャンパス白鳥学舎

※募集は締め切りました．

投稿原稿〆切：2014年4月25日（金）

掲載予定巻号：2015年1月1日発行予定の学会誌（Vol.32, No.1）

5. 特集号編集委員会

委員長：仲林清（千葉工業大学），副委員長：小西達裕（静岡大学），瀬田和久（大阪府立大学）

特集幹事：笠井俊信（岡山大学），小島一晃（帝京大学），東本崇仁（東京理科大学）

委員：学会誌編集委員

6. 問い合わせ

- ・特集号全般に関する問い合わせ：

特集号編集委員会副委員長 小西達裕（静岡大学 E-mail: konishi@inf.shizuoka.ac.jp）

- ・投稿に関する問い合わせ：

教育システム情報学会編集事務局（電話：03-5389-6492 E-mail: jsise-edit@bunken.co.jp）

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19 株式会社国際文献印刷社 長澤

— 2013年度 研究会開催予定 —

テーマ	開催日時	会場	申込締切	原稿締切
第6回研究会 新しい教育を切り開くICTの利用実践・開発 研究／一般	3月15日(土)	名古屋学院大学	終了 1月14日(火)	終了 2月7日(金)
特集論文研究会 持続可能な学習教育支援システムの開発 と運用	3月15日(土)	名古屋学院大学	終了 1月14日(火)	終了 2月7日(金)

— 2014年度 研究会開催予定 —

	テーマ	日時	会場	申込 締切	原稿 締切
第1回	eラーニング環境のデザインと組織マネジメント ／医療・看護・福祉分野における ICT 利用教育 ／一般	5月10日(土) (件数により5月 9日(金)も実施)	放送大学	未定	未定
第2回	ICTを活用した教育の質保証とその評価／一般	7月20日(日)	千歳科学技術 大学	未定	未定
第3回	ゲーム・エンターテインメントと教育システム／一般	9月(予定)	香川大学	未定	未定
第4回	タブレットメディア・スマートフォンなどの新しい ICTを用いた先進的な学習・教育支援／一般	11月1日(土)か 11月8日(土)	電気通信大学	未定	未定
第5回	新技術の開発と活用による次世代教育・学習環 境のデザイン／一般	2015年 1月中旬に実施	大阪産業大学	未定	未定
第6回	新たなネット時代のソーシャルメディアリテラシー と情報倫理／一般 ※第6回研究会と並列開催で、和文誌特集論文 研究会を予定	2015年 3月21日(土)	関東地区で 開催予定	未定	未定

英文誌からのお知らせ

英文誌 : The Journal of Information and Systems in Education, Vol. 12, No. 1 に以下の論文が掲載されました。掲載論文は、J-STAGEにて公開されております。下記URLよりご覧ください。

【日本語】 <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejsise/-char/ja>

【英語】 <http://www.jstage.jst.go.jp/browse/ejsise/>

なお、Vol.12に採録された論文で未掲載のものは、校正が済み次第順次掲載されます。

The Journal of Information and Systems in Education Vol.12

Original Paper

Viewing Behaviors Affected by Slide Features and Learning Style in Slide Video from a Sequence Analysis Perspective p.1-12

Jianxia Cao and Akinori Nishihara

Abstract: This study adopted eye-tracking techniques to investigate the viewing behaviors of students when they watched a slide video in order to get a better understanding of slide video design and learning style theory. The Felder-Soloman Learning Style Model (FSLSM) was used to test students' learning styles and students' viewing behaviors were recorded by an eye-tracking machine. Results showed that participants tended to give priority to the text parts which was consistent with the literature. Pictures in the slide video were paid attention to in a higher ratio compared with a previous study on text-picture integrated stimulus. Effects of slide features and picture functions on students' viewing behaviors were examined. Strong visual learning preference participants paid more attention to the picture and title parts. Moderate visual participants paid more attention to the text and video parts while well-balanced participants were in between them. Sequence analysis was applied to check the transition preference and similarities of viewing behaviors among students. Strategies on slide video designs and a discussion of FSLSM model are provided.

Keywords: e-learning, instructional design and curriculum, web-based learning

Short Note

Supporting Interpersonal Communication Using Mind Maps p.13-18

Brendan Flanagan, Chengjiu Yin, Yohei Inokuchi, Sachio Hirokawa

Abstract - Engaging in initial communication interactions with an unknown partner for the first time can be a daunting task. Participants often use several different strategies, including an active strategy involving getting to know their communication partners through asking other people about them. However, this strategy might not always be possible. To resolve the situation when this strategy is not suitable, we propose a method to extract keywords from the partner's comments on SNS sites and use these comments to represent their interests and activities. Keywords are visualized as a mind map for use as a communication tool when engaging in interpersonal communications. The use of this method is demonstrated and evaluated in three examples that

were created from real world data collected from Twitter.

Keywords: Interpersonal communication, mind maps, feature word extraction, Twitter, SNS

Short Note

NOCOA: A Computer-Based Training Tool for Social and Communication Skills That Exploits Non-verbal Behaviors
p.19-26

Hiroki Tanaka, Sakriani Sakti, Graham Neubig, Tomoki Toda, Satoshi Nakamura

Abstract The number of people with social skills and communication difficulties is now greater than ever for a variety of reasons. Our objective is to measure these difficulties, and enable people with these difficulties to improve their social and communication skills for use in the real world. This paper examines the relationship between non-verbal communication skills and the autism spectrum quotient among members of the general population. We also propose a training framework for these skills. Pre- and post- learning results were examined to find the effects of the training. The results showed an improvement after a 20-minute learning session, indicating that training could help enhance non-verbal communication skills for members of the general population.

Keywords: Non-verbal Communication, Socialization, Computer-Based Training, Autism-Spectrum Quotient

国際会議のご案内

国際会議のご案内は、教育システム情報学会の会員のみなさんからの紹介や、インターネット上で流れている CFP 情報をもとに編集されています。会員のみなさんに紹介したい国際会議などがありましたら、ご連絡ください。

また、実際に国際会議に参加されたレポートなどを送っていただければ今後の国際会議の案内作成の際に大変参考になりますので、そちらのほうもお待ちしております。

2014 年 9 月開催

◆KES 2014: 18th International Conference on Knowledge-Based and Intelligent Information & Engineering Systems

- ・開催期間 : September 15-17, 2014
- ・開催地 : Gdynia, Poland
- ・URL: <http://kes2014.kesinternational.org>
- ・論文投稿スケジュール: Papers (General Sessions): March 15, 2014

2014 年 7 月開催

◆UMAP 2014: The 22nd Conference on User Modeling, Adaptation, and Personalization

- ・開催期間 : July 7-14, 2014
- ・開催地 : Aalborg, Denmark
- ・URL: <http://um.org/umap2014/>
- ・論文投稿スケジュール : Paper submission deadline: April 1, 2014

◆EDM 2014: The 7th International Conference on Educational Data Mining

- ・開催期間 : July 4 - 7, 2014
- ・開催地 : Institute of Education, London, UK
- ・URL: <http://www.educationaldatamining.org/EDM2014/>
- ・論文投稿スケジュール : Abstract for full/short/industry paper submissions due: February 17, 2014
Full, short paper, and industry submissions due: February 24, 2014

2014年6月開催

◆ICSLE 2014 : International Conference on Smart Learning Environments

- ・開催期間 : June 24 - 25, 2014
- ・開催地 : Hong Kong, China
- ・URL: <http://icsle2014.ied.edu.hk>
- ・論文投稿スケジュール : Full Paper Submission: March 31, 2014 (募集中)

◆AACE EdMedia2014: World Conference On Educational Media & Technology

- ・開催期間 : June 23 - 27, 2014
- ・開催地 : Tampere, Finland
- ・URL: <http://www.aace.org/conf/edmedia/>
- ・論文投稿スケジュール : Call For Submissions: December 13, 2013

◆HCI International 2014: 16th International Conference on Human-Computer Interaction

- ・開催期間 : June 22 - 27, 2014
- ・開催地 : Heraklion, Crete, Greece
- ・URL: <http://www.hcii2014.org/>
- ・論文投稿スケジュール : Deadline for Abstract Receipt: 15 October 2013

◆ITS 2014: 12th International Conference on Intelligent Tutoring Systems

- ・開催期間 : June 5-9, 2014
- ・開催地 : Honolulu, Hawaii, USA
- ・URL: <http://its2014.its-conferences.com>
- ・論文投稿スケジュール : Abstract: December 15, 2013
Conference Papers: January 26, 2014



新入会員の紹介

下記の皆様方が、新しくご入会されました。 2013/12～2014/1

名前	所属機関	会員種別
沖林 洋平	山口大学	正会員
土屋 直子	情報科学専門学校	正会員
長山 知由理		正会員
泉 正夫	大阪府立大学	正会員
尾崎 惇史	早稲田大学大学院	準会員
佐藤 弘毅	名古屋大学	正会員

新 入 会 員 募 集

教育システム情報学会は、教育分野における情報通信技術の利用に関する学術研究・調査および情報交換を支援し、教育への情報通信技術の利用を普及させることをその目的としています。

定期的に行われる研究会・セミナーなどに、研究成果を発表できることや、そのほか、定期刊行物の論文誌やニューズレター、研究報告書などがお手許に届きます。

教育分野における情報通信技術の利用に関する学術研究に興味のあるお知り合いの方がおられましたら、是非ご紹介をいただきますようお願い申し上げます。

■お申込み方法■

入会をご希望の方は、入会申込書は学会Webページ (<http://www.jsise.org/>) に掲載しておりますので (PDFファイル) ダウンロードしていただき、必要事項をご記入の上、学会事務局にご郵送または、FAX か、メールにてお送りいただきますようお願いいたします。

ご入会の手続きをいたしますので、後日、事務局から入会金や年会費のお支払い方法などの詳しい資料を送付します。

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、入会金無料・その場で、学会誌最新刊を進呈させて頂くというキャンペーンを行っております。そちらも、合わせてご案内いただきますようお願い致します。

■学会事務局宛■

〒533-0005 大阪市東淀川区瑞光3丁目3-25-101号

教育システム情報学会事務局 宛

TEL/FAX 06-6324-7767 Email : secretariat@jsise.org

事務局より

★★年会費納付のお願い★★

2013年度分の年会費のご入金が未だの会員様は至急お振込頂きますようお願いいたします。

前年度以前の未納が続きますと、ご入金を確認できるまで、学会発送物をお止めさせて頂く場合がございます。また、未納が3年度分を過ぎますと、規約により除名手続きを進めさせていただくこととなります。未納のある会員様は事務局までご連絡をいただければ、期日を過ぎましても受け付けておりますので宜しくお願ひ致します。ご不明な点がございましたら、事務局までメールにてお問い合わせ下さい。

JSiSE 事務局 E-mail : secretariat@jsise.org

※ご登録いただいております情報に変更がございましたら、変更届を事務局までご連絡ください。
ご連絡が無い場合、学会発送物がお届けできない場合がございます。

◎振込先◎

■銀行名 : ゆうちょ銀行 支店名 : 019 店
■当座預金 : 0709632 ※00180-6-709632
■口座名義 : 教育システム情報学会

■銀行名 : 池田泉州銀行 支店名 : 上新庄支店
■普通預金 : 13440
■口座名義 : 教育システム情報学会 家本 修

◎年会費のご案内◎

■正会員 : 7,000 円
■準会員 : 4,000 円
■企業・団体会員 : 50,000 円
■研究報告年間購読 : 4,000 円
■入会金 : 1,000 円 (初年度のみ)

学会誌・研究報告バックナンバーのお求めは

学会誌・研究報告のバックナンバーを購入ご希望の方は、㈱毎日学術フォーラムまでお申し込みください。

株式会社 毎日学術フォーラム

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1パレスサイドビル2階

TEL : 03-6267-4550 / FAX : 03-6267-4555

Mail : maf-sales@mycom.co.jp

URL : <http://maf.mycom.co.jp>

■JSiSE 会員の方で「研究報告」の年間購読をご希望の方は、事務局までご連絡ください。
この機会にぜひ年間購読されますようおすすめいたします。
■年間購読料 4,000円/年6回発行<送料込>